

一般質問通告書

【第73回定例会】

多可町議会議長 河崎 一様
 多可町議会議員 吉田 政義



受 領 日	番号
平成28年12月 7日	7
午前・午後 9 時 15 分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. IWC (インターナショナル・ワイン・チャレンジ) 「SAKE 部門」の関連行事を多可町に誘致を	町 長

IWCとは「インターナショナル・ワイン・チャレンジ」の略称で、イギリスのウィリアム・リード社が主催し、1984年に創立された世界最大規模の、最も影響力のあるコンペティションとして知られています。「SAKE 部門」は2007年に設立され、2016年、10周年を記念し、兵庫県で審査会等が開催されました。審査会には、審査員として英国及び欧州各地より日本酒のサービス、販売等の経験が豊富な関係者が集まります。「SAKE 部門」では、9つのカテゴリー（普通酒、本醸造酒、純米酒、純米吟醸酒、純米大吟醸酒、吟醸酒、大吟醸酒、古酒、スパークリング酒）に分けられ、各カテゴリーで審査されます。カテゴリー毎に「金」・「銀」・「銅」メダル受賞酒が選ばれ、金メダル受賞酒の中から最も優れた1本が各カテゴリーの「トロフィー酒」に選ばれます。さらに、「トロフィー酒」9本の中から1本が、その年最高の日本酒として「チャンピオン・サケ」に選ばれます。

また、日本酒の中でも最高峰と位置付けられ、各酒造会社が自社を代表するフラグシップとして扱う「大吟醸」。その最高の原料（米）として酒造会社から高く評価されているのが、酒米の王者「山田錦」です。大粒で、米の中心にある心白が大きいことが特徴で、程よい水分、脂肪やタンパク質の少なさなど、あらゆる点で酒造好適米としての美点を備えています。なかでも兵庫県は山田錦の「テロワール」と呼ばれ、気候・土壌・技術が一体となって生み出される「兵庫県産山田錦」は最高の酒米と称されています。そして、兵庫県の酒米試験地で産声をあげてから、今年で80周年を迎えます。

5月に開催されたIWCについて、井戸兵庫県知事は、県議会委員会で、IWCは2年に1度、日本で開く意向を示しているが、全てを兵庫でというわけにはいかないだろうが、4年に1度は開催するのはどうかと考えている。東京五輪がある2020年の誘致を目指して、酒造業界や関係市町と連携をとり、機運を高めていきたいと意欲を示されました。

今年の「SAKE 部門」では、県や業界団体らが開催支援委員会を立ち上げ、

全国最大の日本酒生産量や高級酒米「山田錦」をPRする関連行事を三木市吉川でも開いています。2020年に兵庫県で開催されましたら、山田錦発祥の町多可町でも関連行事を誘致してはいかがでしょうか。